

代表事例 No.	4	取組みタイプ	B.危険回避
事例テーマ	移植か除去かを協議し、除去で合意へ		
地域	九州（大分県）	事例種別	除去
管理者	大分市	事業延長	約 0.2km

事例概要	<p>沿道自治会から、落葉等の清掃、手入れ、落枝や倒木による被害の危険性等を解消するための除去要望書が提出されました。そこで、地元住民と協議し既存木の対処方法について検討、合意を得ました。該当箇所が団地入口であるため、除去要望は沿道住民からでしたが、団地の住人の総意であるか確認する必要があると判断しました。</p>																																								
事例テーマの解説	<p>「植栽の現状」と「方向性」について、関係自治体の自治委員との協議により除去の方向で合意を図りました。その後の「計画」、「工事内容」については、地元住民に回覧や個別訪問により合意を図りました。</p>																																								
合意形成のプロセス	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>経過年数</th> <th>方法</th> <th>対象者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 27 年 7 月</td> <td>1 年目</td> <td>協議①</td> <td>対象 2 地区の自治委員</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>【内容等】樹木を除伐・移植ではなく剪定等で対応可能か、聞き取りを実施し、広域的にソメイヨシノの取扱いに関する様々な意見を把握しつつ、ソメイヨシノの危険性に関する認識について合意した。</p> </td> </tr> <tr> <td>平成 28 年 2 月</td> <td>1 年目</td> <td>協議②</td> <td>第 1 回と同じ</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>【内容等】既存街路樹の取扱いについて、移植か除伐のどちらかで対応することで合意した。協議では、移植した場合の費用や根づく可能性を説明し、移植か除伐かの意向や、除伐した場合に反対する方々に対してどう説明するか聞き取りを実施した。</p> </td> </tr> <tr> <td>平成 29 年 10 月</td> <td>—</td> <td colspan="2">幹の空洞化が原因の倒木、通行障害が発生 ソメイヨシノの古木化が明確になった。</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年 12 月</td> <td>3 年目</td> <td>地区内回覧</td> <td>対象地区住民</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>【内容等】移植しても根づかないと判断し、除去する方針を定めた。ソメイヨシノの除伐を複数年かけて実施するお知らせを地区内回覧で実施した。沿線住民には直接説明した。</p> </td> </tr> <tr> <td>平成 30 年 2 月</td> <td>3 年目</td> <td>戸別訪問</td> <td>沿線住民</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>【内容等】工事に関する周知。沿線住民に業務内容と除伐する順番（倒木危険性がある樹木の順）について説明した。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	時期	経過年数	方法	対象者	平成 27 年 7 月	1 年目	協議①	対象 2 地区の自治委員	<p>【内容等】樹木を除伐・移植ではなく剪定等で対応可能か、聞き取りを実施し、広域的にソメイヨシノの取扱いに関する様々な意見を把握しつつ、ソメイヨシノの危険性に関する認識について合意した。</p>				平成 28 年 2 月	1 年目	協議②	第 1 回と同じ	<p>【内容等】既存街路樹の取扱いについて、移植か除伐のどちらかで対応することで合意した。協議では、移植した場合の費用や根づく可能性を説明し、移植か除伐かの意向や、除伐した場合に反対する方々に対してどう説明するか聞き取りを実施した。</p>				平成 29 年 10 月	—	幹の空洞化が原因の倒木、通行障害が発生 ソメイヨシノの古木化が明確になった。		平成 29 年 12 月	3 年目	地区内回覧	対象地区住民	<p>【内容等】移植しても根づかないと判断し、除去する方針を定めた。ソメイヨシノの除伐を複数年かけて実施するお知らせを地区内回覧で実施した。沿線住民には直接説明した。</p>				平成 30 年 2 月	3 年目	戸別訪問	沿線住民	<p>【内容等】工事に関する周知。沿線住民に業務内容と除伐する順番（倒木危険性がある樹木の順）について説明した。</p>			
時期	経過年数	方法	対象者																																						
平成 27 年 7 月	1 年目	協議①	対象 2 地区の自治委員																																						
<p>【内容等】樹木を除伐・移植ではなく剪定等で対応可能か、聞き取りを実施し、広域的にソメイヨシノの取扱いに関する様々な意見を把握しつつ、ソメイヨシノの危険性に関する認識について合意した。</p>																																									
平成 28 年 2 月	1 年目	協議②	第 1 回と同じ																																						
<p>【内容等】既存街路樹の取扱いについて、移植か除伐のどちらかで対応することで合意した。協議では、移植した場合の費用や根づく可能性を説明し、移植か除伐かの意向や、除伐した場合に反対する方々に対してどう説明するか聞き取りを実施した。</p>																																									
平成 29 年 10 月	—	幹の空洞化が原因の倒木、通行障害が発生 ソメイヨシノの古木化が明確になった。																																							
平成 29 年 12 月	3 年目	地区内回覧	対象地区住民																																						
<p>【内容等】移植しても根づかないと判断し、除去する方針を定めた。ソメイヨシノの除伐を複数年かけて実施するお知らせを地区内回覧で実施した。沿線住民には直接説明した。</p>																																									
平成 30 年 2 月	3 年目	戸別訪問	沿線住民																																						
<p>【内容等】工事に関する周知。沿線住民に業務内容と除伐する順番（倒木危険性がある樹木の順）について説明した。</p>																																									

従前の樹種と写真	除去後の写真
<p style="text-align: center;">ソメイヨシノ</p> 	
<p>合意形成が困難になった状況</p>	<p><b>【理由または経緯】</b>          地区内で植え替えと除伐で意見が対立しましたが、市内部では判断し兼ねました。</p> <p><b>【解決策】</b>          協議の途中、古木の空洞化による倒伏が発生したため、除伐で意思決定ができました。倒伏の状況を自治委員に説明し、除伐に対する理解を求めました。</p>
<p>取組みの評価</p>	<p><b>【道路管理者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古木化した街路樹の更新の必要性について認識することができました。</li> </ul> <p><b>【地域住民等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>古木がなくなることで、通行の安全が確保され、毎年行ってきた落ち葉の清掃や害虫被害からも解放されました。</li> </ul>
<p>実施後の維持管理等への効果</p>	<p>(除去につき該当なし)</p>
<p>その他の工夫点・アイデア等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険回避を目的に既存木の除去を行うにあたり、対象自治区の自治委員との協議と、対象地区の住民を対象にした回覧による周知を行い、その後施工直前には、沿道住民に個別訪問による最終確認を行っています。</li> <li>幹の空洞化が確認でき、移植しても根がつかないと判断したため、その後半年ほど幹の空洞化している状況を沿道から確認できるようにして、地域住民が街路樹の現状を把握できるよう配慮しました。</li> <li>古木への対応策であれば、試験的に1本除伐し、樹木の状況を明確にすることで、移植か除伐か方針の決断がしやすくなります。</li> </ul>
<p>公開資料URL</p>	<p>(該当なし)</p>